

報 告 書

(委 員 会 名) 産経建設常任委員会
(視 察 日 時) 令和5年10月23日(月)13時25分～15時30分
(視察先都市名) 山口県周南市
(視 察 項 目) 「道の駅 ソレーネ周南」について
(報 告 者) 大塚 佳弘

(内 容)

道の駅ソレーネ周南について

【事業の目的と施設の概要】

「道の駅ソレーネ周南」は、国道2号沿いに立地しており、高速道路(山陽自動車道)徳山西ICから自動車です約1分と近く周南市の西の玄関口として、道路利用者が快適に休憩できる場所を提供している。また、道路・観光の情報と周南ブランドを全国に発信し、周南市のアピール・農林水産業の振興や地域の活性化を目的としている。

①実施主体 国土交通省山口河川国道事務所と周南市が一体となって整備

②総事業費 19億円(国:6億円、周南市:13億円)

③施設概要 全体:22,900㎡

駐車台数:170台(大型44台、小型123台、身障者用3台)で、
駐車場の広さは県下では一番大きい

トイレ施設:42器(男:20器、女19器、多目的3器)

【質問】 長期の不法駐車対策は。

【回答】 1週間を目処に確認を実施(全部の把握は困難)

④平成26年4月1日、国土交通省が整備した駐車場とトイレについて利用開始

⑤平成26年5月17日に県下21番目の道の駅として開業される。

⑥地元団体の11団体で設立された「一般社団法人周南ツーリズム協議会」が指定管理者として運営

⑦駅名のネーミング「ソレーネ」は、山口の方言で「そうだね」を意味する

⑧建築は内藤 廣氏(東京大学名誉教授)が設計され全天候型ドーム(ナベヅル)の一体型で構成

【質問】 このデザインの決定は。

【回答】 関係者の合議により決定した。

デザインは良かったが、改築等が困難で増築ができない課題がある。

【主要事業と取り組みの概要】

高齢者が栽培する野菜の集荷や高齢者宅の見守り、近隣の農林水産業の6次産業化などに取り組む「福祉型の道の駅」を掲げており、平成26年11月17日にヤマト運輸(株)と「地域活性化包括連携協定」を締結した(全国初)。この取り組みが翌年グッドデザイン賞にノミネートされ金賞を受賞している。

平成 28 年 1 月には重点「道の駅」に選定。また、令和 3 年 6 月には防災と災害支援拠点となる「防災道の駅」に選定されている。

①指定管理費は 1,400 万円/年間で 5 年契約、独立採算制を採用

売り上げ利益バック等の負担はない。

質問 防災訓練は実施しているのか。

回答 定期的実施（今年の 8 月に実施）

②年間売り上げ：7.2 億円（197 万円/日）、年間客数 70 万人（1.9 千人/日）

【令和 4 年度】コロナ前水準に戻っている

※指定管理者の収入はテナント料＋販売委託手数料

③地域振興施設：物品販売、製造販売、軽食、食堂、情報発信コーナー

④平成 28 年 1 月「道の駅」内に高齢者等の相談窓口を設置、バス停の整備を行い
地域住民の生活サポート体制を構築

質問 相談窓口の件数はどのくらいなのか

回答 道の駅では 267 件の相談を受けている。（市全体で約 50 件）

質問事項

①道の駅の設置目的

Q 1：設置目的は農業振興、漁業振興、観光振興、地域及び地域経済の活性化と
周南ブランドの発掘と、交流人口の拡大とあるが、当初と現在の状況は

A 1：当初と現在の状況に変更はない

②運営法人「一般社団法人周南ツーリズム協議会」について

Q 1：協議会設立に至った経緯

A 1：管理運営として地元の管理団体に協議会に入ってもらい法人化した

Q 2：運営に係るメリット、デメリット

A 2：メリット：生産者自身が地域に根ざした運営ができる

デメリット：道の駅の運営ノウハウが無く、手探り状態でスタートした

Q 3：設置にあたり苦労された点

A 3：・各団体も苦労をされながら道の駅の経験を習得した⇒非公募型で実施した
・用地習得からのスタートで、途中で場所の変更もあり 3 箇所から 1 箇所に
場所の選定に苦労をした

③市内産業振興への効果は

A：オリジナル商品の開発と販売「周南ブランド」の取り扱いと、地元の牛乳、
ウインナーの加工販売⇒6 次産業化の取り組みができた

④市民の利用状況

A：a)研修利用：研修室 629 件、ドーム広場利用 340 件（令和 4 年度）

b) 市民は日々の買い物等に利用している

⑤新幹線駅との相乗効果は

A：新幹線との効果は分からないが国道2号線との相乗効果はあると考える

⑥「福祉型の道の駅」としてヤマト運輸㈱と締結している、全国初の「地域活性化包括連携協定」の内容

A：主な取り組みは中山間地域の交通手段の無い方に対して、買い物支援として地域毎に曜日を決めての移動販売を実施

⑦平成28年に防災と令和3年6月に災害支援拠点となる「防災道の駅」に選定されているが、選定されるための取り組み

A：新「道の駅」のあり方検討会（国主催）の提言として、「道の駅」第3ステージ（2020年～2025年）として2025に目指す3つの姿

- 1) 「道の駅」を世界ブランドへ
- 2) 新「防災の駅」が全国の安心拠点に
- 3) あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターになることの「防災道の駅」
目指し県と国と協議を進めて選定することができた

※防災道の駅選定に伴う具体的取り組み

令和4年度は、道の駅BCP、国において研修交流室の無停電化工事実施

⑧令和5年より営業時間に変更となった経緯

A：9年間の収支実態から24時間営業は見込めないことと、働き改革の見直しを行い、令和5年4月1日より8時～20時に変更した

⑨現状の課題と、課題への取組

A1：駐車場が手狭になってきた、安全面に課題がある

A2：販売店舗が少ない、バックヤードも狭く販売に影響がある、

※今後のリニューアル（パーク化）による機能強化を進めていく

⑩その他

Q1：高速道理からのETC2.0による利用増加と売り上げはどうか

A1：利用数は増加しているが、売り上げの増減は分からない

台数の推移：令和2年 13,000台

令和3年 17,000台

令和4年 20,000台

3 所 感

周南市は徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町2市2町の合併により平成15年4月21日に周南市として生まれ変わり、13万6千人の人口を有し、南側は瀬戸内海に面し、臨海部は広大な工業地帯で、中国山地を背にした山間部は豊かな自然と産業のまちである。周南市の玄関口となっているJR徳山駅は山陽新幹線駅で、また、市内を東西に貫いている山陽自動車道、中国自動車道は4つのインターチェンジを有している。

また、徳山港と大分県竹田津港を結ぶ航路もあり、水素利活用事業は平成 15 年から普及活動も進めており、敦賀市と人口、面積規模、産業の形態に違いはあるが、北陸新幹線駅、高速道路のアクセス、エネルギー関連等の共通点が見られる。

今回の視察目的でもある『道の駅ソレーネ周南』については、開設以来 10 年目を迎える。スタート時は、「オール周南で 24 時間周南ブランド発信」をコンセプトに、年中無休の 24 時間営業で、周南市産を中心とした新鮮な野菜や果物に鮮魚、特産品とさまざまな商品が豊富に揃い、地産地消レストラン「ベーカリーキッチン菜」では、産直コーナーに出荷される野菜などを使い、地元の食文化を大切にしたオリジナルメニューを提供している。（令和 5 年 4 月 1 日より 8 時～20 時に変更）

そのような中で周南市は、運営を通じて課題が浮き彫りとなる一方で、高い集客力を維持するなど、更なる飛躍の可能性を見いだすために、子どもから高齢者まで誰もが集い・憩い・楽しめる「道の駅パーク」の実現を目指し、現在リニューアルに向けての市場性調査業務に係る公募型プロポーザルを実施している。また、運営形態の運営法人は 11 団体で構成される「一般社団法人周南ツーリズム協議会」は言わば素人集団でスタートされた中、施設としては国土交通省の整備した駐車場とトイレからスタートして地域振興を含む「道の駅」として共用開始されたことと、その間には平成 28 年 1 月に重点「道の駅」選定として地域住民の生活サポート体制の構築、道の駅を媒体に買い物弱者への買い物支援、広域的な防災拠点に位置づけられている令和 3 年 6 月に「防災道の駅」の選定をされて、日々進化を続けられている。

今回の視察は敦賀市の「道の駅」整備の必要性検討がスタートされる中で、10 年目を迎えた「道の駅ソレーネ周南」の、運営組織、整備内容、運営内容と方法等の課題共有ができたことは非常に有意義であった。今後、敦賀市の「道の駅」整備の必要性を議論する上で大いに参考になった。

* 1 市（県・町・村・施設）ごとに作成（複数ページにわたっても可）。

視察先ごとに、考察・感想を加えてください。